書　評　Book Review

□梅沢 俊：**北海道の草花**　Shun Umezawa: **Wild Flowers of Hokkaido**　B5 判．399 pp. 2018．北海道新聞社．¥3,600＋税．ISBN 978-4-89453-911-2 C2045.

本書の性格は「あとがき」に示されている．すなわち，「植物の分類体系が大きく変わりました．北海道では『北海道植物誌』的な出版の構想があるとは聞いていますが，具体化はまだまだ先．そこで思い立ったのが本書です．もともとその力量があるとは思ってはいませんが，とにかくたたき台がなければ先に進めないとの思いから“人生最後の仕事”として取り組みました（笑）」．

本書は北海道の海岸から高山に見られる草花と小低木を対象に約 1950 種を扱った図鑑である．同じ著者の『新 北海道の花』と『新版 北海道の高山植物』を合せた内容となっており，帰化植物も網羅しているが，シダ植物は含まれていない．科の中身と配列順序は APG III と APG IV に準拠している．「約 1950 種」とあるのは，現時点で正体が不明なものも含んでいるから．北海道のフロラが全て分かっている訳ではなく，今だに不明なものがあるのだと明示していくスタンスである．評者はこのような姿勢を高く評価したい．

図鑑の中身を紹介しよう．B5 版 1 ページの 1/4 あるいは 1/2 を 1 種に当て，簡潔な記載，全体写真，そして部分拡大写真（花と果実が大部分）からなる．類書と異なる点は，写真に直接引出線を入れ，ポイントとなる特徴を記述している点である．このスタイルは，同じ著者の『北海道の花図鑑 利尻島・礼文島＜新版＞』で最初に採用された方法のようだ．著者独特のしっとりした風情のある写真を損なわないように，引出線や説明文は小さく抑えられている．とても分かりやすい表記の手法だが，プロカメラマンとして，アートというべき写真をこのように加工することに当初は多少とも抵抗があったのではないかと推察している．「植物図鑑」と銘打っていても実態は植物写真集であることが多いなか，植物図鑑とはどのようなものかという，著者の哲学を窺うことができる．評者の私見では，部分拡大写真を大きくして，全体写真を小さくしても良かったのではないかと思う．

取り上げられている植物について，多少コメントしたい．122 ページのキンポウゲ科タガラシの写真は衝撃的だ．あの元気な雑草も分布域の限界ではこんな形になってしまうのは驚きだ．129 ページのユキノシタ科の「トリアシショウマ」．北海道にはトリアシショウマが分布するが，この写真で示された植物はアカショウマの一型と思われる．なぜなら，小葉の概形がトリアシショウマとは異なっているから．145 ページのマメ科仮称カムイイワオウギは確かに未記載種のように思われる．350 ページ，キク科トウヒレン属の「不明種」はカラフトアザミ *Saussurea sachalinensis* F. Schmidt であろう．354 ページのソウヤアザミと 356 ページのエゾキレハアザミは種として実在することは明らかで，早期に正式に発表される必要がある．これは植物分類学者の怠慢である．

本書が梅沢氏の「人生最後の仕事」とはならないよう祈りたい．　（門田裕一 Yuichi Kadota）